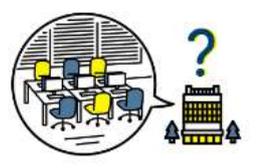




日本経済新聞

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が延長されたり、令和5年5月8日から扱いが2類から5類変更されたしました。新たな働き方の模索が続いています。仕事の現場がどうなるか、見ていきましょう。

<p>01 </p>	<p>02 </p>	<p>03 </p>
<p>進化するオンライン会議</p> <p>会議室にみんなが集まって話し合うスタイルは今は昔。在宅で仕事をする人が増え、オンラインで人をつなぐビデオ会議がふつうになりました。使いやすいように技術も進化しつつあります。</p>	<p>3密避ける通勤</p> <p>ぎゅうぎゅうの満員電車は「3密」で感染のリスクがあります。リスクを避けようと、通勤を自転車や相乗り配車に変える人もいます。始発の時間繰り下げや終電の繰り上げの動きもあります。</p>	<p>ジョブ型雇用って何だ</p> <p>「ジョブ型雇用」って聞いたことがありますか？ 社員がやるべき職務を会社ははっきり定めて成果にもとづいて処遇する制度です。時間にとらわれない働き方で、導入する動きが広がっています。</p>

<p>04 </p>	<p>05 </p>
<p>広がるテレワーク</p> <p>オフィスではなく自宅などで働くテレワーク。通勤時間が減って生産性が高まると期待され、制度を見直す会社があります。一方、働く人の環境整備や不安解消が課題になっています。</p>	<p>オフィスはいらない？</p> <p>在宅勤務が広がると、会社に出てくる人が少なくなります。オフィス面積を減らしたり、郊外に散らばろうとする企業が出ています。好立地のビルを他社に貸すなど有効活用の手もあります。</p>